

2025年2月9日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第67巻第46号(通算3428号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

小さくされている人を
大切に**する**教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

神はこの世を大切に思い、ひとり子を差し出した。ひとり子に信頼をもってあゆみを起こす人が
みな、滅びることなく、永遠のいのちを得るようになるためである。(ヨハネによる福音書3:16)

ろうでん こうだんこうかんれいはい
労伝デイ 講壇交換礼拝
こうたんせつ だい しゅじつれいはい
(降誕節 第7主日礼拝)

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜんそう もくとう ちよさくけんしょうめつ
前奏(黙禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しへん へん せつ
招きの詞 詩編 136編 25節

さんびか ばん あさ しゅ
賛美歌 21-472番「朝ごとに主は」(©JASRAC)

せいしょ ふくいんしょ しょう せつ
聖書 マタイによる福音書 20章 1-15節

いの うしだ ただし ぼくし
お祈り 牛田 匡 牧師

さんびか ばん め あ み さんびかかいていいんかい
賛美歌 21-156番「目を上げ、わたしは見る」(©讚美歌改訂委員会)

かみ やくそく うつく ちょうわ きょうかい ながとみ み か ぼくし
メッセージ「神の約束とは美しい調和である」(いずみ教会) 永富美加牧師

さんびか ばん とも い ばん
賛美歌 21-419番「さあ、共に生きよう」(©JASRAC)

しゅ いの ばん てん ちち さんびかかいていいんかい
主の祈り 21-62番「天にいます わたしたちの父」(©讚美歌改訂委員会)

ささげもの
献げ物(*)

は けん ばん かみ めぐ う せつ
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅくふく きょうかい ながとみ み か ぼくし
祝福 (いずみ教会) 永富美加牧師

こうそう ばん きょうだんさんびかいいんかい
後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讚美歌委員会)

ほうこく ページ さんしょう
報告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物(献金)」は、受付にある献金箱にお献げください。

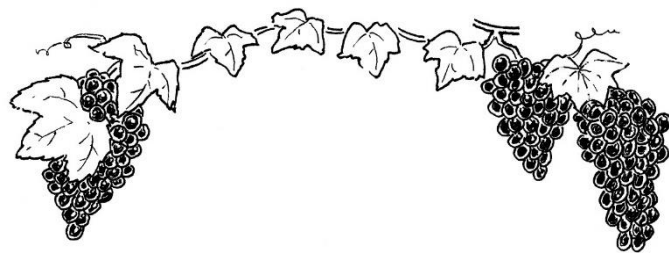
招きの詞 詩編 136 編 25節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

すべての肉なるものに糧^{かて}を与える方に。

慈^{いつく}しみはとこしえに。

聖書 マタイによる福音書^{ふくいんしょ} 20章^{しょう} 1-15節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

1 「天の国は、ある家の主人に似ている。主人は、ぶどう園^{えん}で働く労働者を雇^{やと}うために、夜明けとともに出かけて行った。2 彼は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。3 また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場で立っている人々がいたので、4 『あなたがたもぶどう園に行きなさい。それなりの賃金を払うから』と言った。5 それで、彼らは出かけて行った。主人はまた、十二時ごろと三時ごろに出て行って、同じようにした。6 五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と言った。7 彼らが、『誰も雇^{やと}ってくれないのです』と答えたので、主人は、『あなたがたもぶどう園に行きなさい』と言った。8 夕方になって、ぶどう園の主人は管理人に言った。『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい。』9 そこで、五時ごろに雇^{やと}われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。10 最初に雇^{やと}われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていたが、やはり一デナリオンずつであった。11 それで、受け取ると、主人に不平を言った。12 『最後に来たこの連中は、一時間しか働かなかったのに、丸一日、暑い中を辛抱^{しんぼう}して働いた私たちと同じ扱いをなさるとは。』13 主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたは私と一デナリオンの約束をしたではないか。14 自分の分を受け取って帰りなさい。私はこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。15 自分の物を自分のしたいようにしては、いけないのか。それとも、私の気前のよさを妬^{ねた}むのか。』』



《先週のメッセージより》2025年2月2日

「子どもの目に映るもの」

牛田匡牧師

聖書 マタイによる福音書 21章 12-17節

イエス様が十字架に架けられていく、いわゆる「受難」への道のりの冒頭にあるのが、「エルサレム入城」と「神殿から商人たちを追い出す」というお話です。エルサレムにあった神殿には、様々な国からユダヤ人たちがお詣りにやって来ていましたので、そこには様々な通貨が交錯していました。しかし、神殿で献げられる貨幣は特別に定められており、人々は両替手数料を支払ってでも準備する必要がありました。また律法に定められた「いけにえ」として献げる鳩などの動物も、神殿の境内では売られていました。恐らく今日の縁日の屋台のように、境内には多くの商人たちの台が並んでいたのでしょう。神殿詣でに来る人々は否応なく、そこで両替や購入をするわけですから、商人たちも神殿側も丸儲けの搾取構造です。もしも、そのような神殿権力体制に対して、反対するような人がいたら、神殿の権力を笠に着て、「反対する者は呪われよ」とでも言えば、反対者たちは何も言えなくなってしまいました。そのような時代の中で、イエス様は腐敗した権力者たちに対して真っ向から、「否」を突き付けたわけです。イエス様がエルサレムに入城された際、神殿の外では、「ダビデの子にホサナ」「救い主、万歳」と叫んでイエス様のことを大歓迎した人々も、神殿の境内では、何も言えなくなっていました。そこではたとえ不満があっても、不本意であっても、律法や慣習に定められている通りにしなければ、今よりももっとひどい目に遭わされるかもしれない。そのような恐怖感が人々を支配していたのだと思います。今日の言葉で言えば、ハラスメント状態にあったということでしょう。しかし、そのような物言えぬ状況、自分ではどうしようもない閉塞感、束縛された状況に、解放の糸口をもたらしただのがイエス・キリストの言葉と振る舞いでした。そしてまたそのようなイエス様の姿に素直にびっくりして、無邪気に「ダビデの子にホサナ」と叫ぶ子どもたちの声でした。

子どもたちの目に映るもの。それは己の立場や、損得・利害関係などの様々なしがらみに関係なく、正しいものに正しいと言い、おかしいものにおかしいと言うこと。自分の周りにいる隣人の手を取り、必要な手当てをすることなのだろうと思います。そこにこそ、本当の解決。真実の命へと至る道があるのではないのでしょうか。子どもたち、社会の中で弱く小さくされている人たちとの関わり合いを通して、私たちはまた本当の命へと続く歩みを教えて頂きながら、今日もまた生かされて参ります。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 2025年2月2日

礼拝出席 大人7名 献金 大人6,100円 中継視聴者数15回 感謝

◎次週 2025年2月16日(日) 降誕節第8主日礼拝

招きの詞 イザヤ書 30章 19節

聖書 マタイによる福音書 5章 1-12節

メッセージ 「心の貧しい人とは」水谷憲牧師

賛美歌 21-206番(©教団讃美歌委)、21-57番(©JASRAC)、21-578番(©P.D.)



◎お知らせ

- ・本日の礼拝は、釜ヶ崎で支援活動を行っている「関西労働者伝道委員会」の働きを覚える関西労伝デいの講壇交換礼拝でした。いずみ教会(和泉市伯太町)の永富美加牧師が来ていただきました。どうもありがとうございました。久宝教会からは水谷憲牧師がいずみ教会に行かれました。
- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。
- ・2月11日(火)15時~17時にかけて天満教会にて、「信教の自由を守る日2・11集会」が開催されます(大阪教区主催)。講師は栗原康さん(東北芸術大学非常勤講師)で演題は「天皇制と権力の脱構築」です。参加費は無料です。会場での対面参加の他、ZOOMによるオンライン参加も可能です。オンライン参加希望の方は、本日中に、右記のメールアドレスにお名前・教会名(所属)・メールアドレスをご記入の上、山下壮起委員長宛てにお申込みください。uccj.osaka.2.11@gmail.com
- ・2月22日(土)14時~16時にかけて、大阪クリスチャンセンター(玉造)にて、大阪教区核問題特別委員会主催の公開講演会「手に負えない原発 それでも動かしますか?」が開催されます。講師は樋口英明さん(元福井地裁裁判長)です。オンライン配信はありません。参加無料ですので、どなたでもご参加ください。
- ・2月23日(日)14時半~16時半にかけて、枚岡教会にて、河内地区有志教会壮年会が開催されます。枚岡教会の浅見覚牧師による礼拝の後、「LINEのセキュリティー対策」に関するお話しがある他、浅見牧師を囲んでの歓談の時を持つ予定です。参加費は無料です。青年や女性も歓迎いたします。どなたでもご参加ください。

◎ 次週以降の行事予定


	メッセージ	行事
2/16	水谷憲牧師	
2/23	牛田匡牧師	誕生者祝福式・おにぎり支援 河内地区有志教会壮年会 14時半 ~16時半(@枚岡教会)
3/2	牛田匡牧師	ユウカリスト・教会を考える会
3/9	水谷憲牧師	

核問題特別委員会 公開講演会

手に負えない原発 それでも動かしますか?


多くの人に真の国富とは何かを考えてほしい。たとえ、原発の運転が地球温暖化抑制の一助になると仮定しても、地球温暖化抑制のために我が国を減ばしかねない原発を運転することは、もの軽重の判断において著しくバランスを欠いたものといえます。
—「私が原発を止めた理由」(旬報社)より—

講演: 樋口 英明 「原発は地震に耐えられない」
元福井地裁裁判長



2014年5月21日関西電力大飯原発3・4号機の運転差止め判決を命じ、さらに15年4月14日には高浜原発3・4号機の運転差止め仮処分決定を出した。17年8月に定年退職。
著書: 『私が原発を止めた理由』
『南海トラフ巨大地震でも原発は大丈夫と言う人々』(共に旬報社)
『保守のための原発入門』(岩波書店)
映画: 『原発をとめた裁判長として原発をとめる農家たち』

日時: 2025年2月22日(土)
午後2時~4時
会場: 大阪クリスチャンセンター
1F大ホール
大阪市中央区玉造2-26-47
Zoom 配信はありません。
どうぞ会場にお越しください。
—入場無料—



主催 大阪教区核問題特別委員会
問い合わせ: 山崎知行 090-1899-0475